

特集：身近にいる危険な毒虫

巻頭言

今月も少し愚痴らせてください。政府が進めている今の「働き方改革」はただ単に残業を減らし、休みを増やすだけの「働かせない改革」ではないでしょうか。ただでさえ人手不足の中、これでは私たちに仕事をするなど云っているようなものです。

確かに過労死などは絶対にあってはならないと思いますし、サービス残業などは問題外です。しかし先日新聞に、残業が減らされることで所得が減ってきていると云う記事が載っていました。その反動でしょう、残業が減ってしまい生活費が足りないために、休日に働き出したと云う人が実際わたしの周りにもいます。こんな時に「副業を認める」企業が増えてきたなどとも言われ、全く矛盾した状況に成っていることを政治は分かっているのでしょうか。これなら別会社を作り、残業分や休出分をそちらの会社で仕事をしてもらえば良いと云う事に成り、抜け道を探すような、本末転倒なことと成ってしまいます。効率を上げることで休日や自由時間を増やし、人生を豊かにするはずの改革が、全く逆の結果と成ってしまいます。

そしてもう一つ危惧することがあります。それは「働き方改革」で食中毒が増えるのではないかと、思っています。飲食店などで人手が足りないために、直接売上には結び付かない掃除などが疎かになってきているところがあると感じています。人手不足で通常業務ですら忙しさが増している所に、その後の掃除は本当に大変です。そのままにしてしまう店も見受けられ、それがネズミやゴキブリだけでなく、微生物の増殖にも繋がる結果と成ってしまいます。あながち人手不足で食中毒が増えると云うのは嘘ではないと思います。

明治・大正・昭和の労働環境ではありません。法律が全く時代に合っていないと感じます。必要最低限のやってはいけないルールを決め、それ以外は会社と従業員双方で納得できる契約をすれば良いのではないのでしょうか。これでは日本の国力が弱って行く気がします。

(雅)

身近にいる危険な毒虫

今年の夏は猛暑の影響で蚊が少ないという記事が掲載されていました。暑過ぎて蚊取り線香や虫よけスプレーもあまり売れなかったそうです。しかし、9月に入り少し涼しくなっており、今後、虫の活動が活発になる可能性は十分にあります。そこで、今回のエムテックインフォメーションでは、住宅街や公園付近などの身近な場所にいる危険な毒虫についてご紹介します。また、これらの毒虫による被害に遭った場合の対処方法についてもご説明しますので、もしもの時に役立てて頂ければ幸いです。

毒虫の種類

種類	生態や被害	写真
セアカゴケグモ	生態: 特定外来生物に指定されている毒グモです。日当たりの良い暖かい場所で、様々な人工物の窪みや穴、隙間などに網を張って営巣します。人の移動や輸送などによって分布を拡大しています。	
	生息場所: 側溝、フェンス、公園のベンチなど	
	被害: 咬まれることで神経毒による症状が出ます。直後は軽い痛みを感じる程度で、次第に痛みが増加し、腹痛、胸痛などを起こします。重症になると、嘔吐、発熱、高血圧、頻脈、リンパ節の腫れ、進行性の筋肉麻痺などを引き起こしますが、日本での死亡例はありません。	
チャドクガ	生態: 代表的な毒のある蛾類です。本州以南の日本全国に分布します。卵～幼虫～成虫のすべての世代で毒を持っており、毛に毒があります(毒針毛)。年2回程(4月～10月頃)、樹木の葉に大量発生します。	 
	生息場所: サザンカ、ツバキ、チャノキなどの樹木	
	被害: 毒針毛が刺さると激しい痒みと皮膚炎を生じ、長期に亘って痒みが続きます。毒針毛は非常に小さく飛散するため、直接触れていない場合でも近くを通るだけで被害に遭うことがあります。	
イラガ類	生態: 幼虫に毒棘のある蛾類です。ナメクジのような扁平な体型で、背面に鋭い棘を持ちます。特徴的な堅い殻のような繭(写真下)を作って越冬します。年1～2回(7月～10月頃)発生します。	 
	生息場所: カキ、サクラ、ウメ、ナシ、カエデなどの樹木	
	被害: 刺されると電気が走ったかのような強い痛みを感じます。ただし、痒みはあまりなく、症状は数日で消えることが多いです。	

種類	生態や被害	写真
ムカデ類	<p>生態: 言わずとも知れた足のたくさんある肉食性の節足動物です。地表面を徘徊するほか、建物の壁などもよく登ります。5~10月頃に発生し、日本全国に分布しています。姿がよく似ているヤスデ類は咬むことはありません。</p>	
	<p>生息場所: 庭、草むら、石、レンガ、落ち葉の下など</p>	
	<p>被害: 大顎で咬みつき毒を注入することで、激しい痛みを伴う炎症や腫れ、痒みを引き起こします。アナフィラキシーショックを引き起こす場合もあります。家の中に侵入し、靴や布団の中に潜りこみ、気付かずに咬まれるケースも多いです。</p>	
アオバ アリガタ ハネカクシ	<p>生態: ハネカクシという甲虫類の仲間で、緑と赤の目立つ体色をしています。日本全国に分布し、年1~3回(4~10月頃)に発生します。夜間に照明の光に誘引されて建物内に侵入します。</p>	
	<p>生息場所: 河原、水田、畑、湿った草地など</p>	
	<p>被害: 体液中に有毒物質ペデリンを含んでおり、虫を潰したり、刺激を与えた時に人間の皮膚に体液が付着することで皮膚炎を発症します。最初のかゆみを感じ、やがて痛みを伴う水ぶくれのような炎症を引き起こします。</p>	
カミキリ モドキ類	<p>生態: カミキリムシに似た甲虫類の仲間です。日本全国に分布し、年1回(5~9月頃)発生します。夜間に照明の光に誘引されて建物内に侵入します。</p>	
	<p>生息場所: 平地や山地の樹木</p>	
	<p>被害: 体液中に有毒物質カンタリジンを含んでおり、虫を潰したり、刺激を与えた時に人間の皮膚に体液が付着することで皮膚炎を発症します。水ぶくれのような炎症を引き起こします。</p>	
ツチハン ミョウ類	<p>生態: 腹部が大きく独特の形状をした甲虫類の仲間です。本州、四国、九州に分布し、早春から初夏、秋季に見られます。飛ぶことはできません。</p>	
	<p>生息場所: 草地や山地の地表</p>	
	<p>被害: 成虫は体液中に有毒物質カンタリジンを含んでおり、刺激を与えるると有毒の体液を出します。体液は皮膚に付着すると水ぶくれのような炎症を引き起こします。毒の量は非常に多く、触れると危険ですが、飛ぶことができないため、被害事例は少ないです。</p>	

毒虫被害の対処方法

毒虫による被害の対処方法として共通することは、**患部を極力搔かないこと**です。搔くと炎症などの症状が悪化する場合があります。もし、症状が悪化した場合は、すみやかに医療機関に受診して下さい。そのときにどのような毒虫被害であるのかわかるように、可能であれば被害を起こした虫を取っておくことも適切な対処に繋がります。予防のために、**不用意に虫を触らないこと**や、虫が発生した樹木付近では長袖を着用することなどを普段から気を付けておきましょう。以下に種類毎の対処方法を記載しました。



チャドクガによる被害

被害のタイプ	虫の種類	対処方法
咬む	セアカゴケグモ、ムカデ類	咬まれたら、流水で患部を洗い、すみやかに医療機関に相談する。セアカゴケグモで重度の場合、血清による治療が有効。初期対応としてポイズンリムーバー（毒液吸引器）も有効。
毛や棘	チャドクガ、イラガ	毛などが付着した場合は流水で洗うか、テープで毛を抜く。皮膚炎には抗ヒスタミン薬やステロイド薬の使用。
体液	アオバアリガタハネカクシ、カミキリモドキ、ツチハンミョウ	皮膚に虫が止まったら、叩き潰さずにそっと払う。患部は流水で洗う。皮膚炎には抗ヒスタミン薬やステロイド薬の使用。

害虫駆除・対策のご相談は、弊社までお問い合わせください。

食中毒情報

今月も細菌性食中毒が多く発生しており、その中で腸炎ビブリオを原因とした食中毒も2件発生していました。1件は出前のちらし寿司、もう1件はチェーン展開している回転寿司の複数店舗でした。腸炎ビブリオは塩分を好む食中毒菌で、主に海水魚介類が原因で食中毒が発生します。以前は多く発生していましたが、近年は流通から保管までの低温管理が徹底されるようになり、発生件数が大幅に減少しています。今回の食中毒では、運搬中の温度管理が不十分だったことが危惧されます。腸炎ビブリオの食中毒予防には、食材を水道水で洗って菌と共に塩分を洗い流す、室温に長時間放置しないことが重要です。まだ細菌の増殖しやすい時期のため、食品の保管管理には注意をお願いします。

全国食中毒発生状況 (8/15~9/13 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
寄生虫	12	12
カンピロバクター	10	103
病原性大腸菌	7	249
自然毒	5	6
不明・その他	14	294

『ひとつ、ふたつ…快適環境を生み出します』

MARUMA M/TEC
株式会社 **マルマ** エムテック衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11 TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120	名古屋支店	／ 〒452-0946 愛知県清須市廻間 1-5-9 TEL：(052)325-3306 FAX：(052)325-3326
東京支店	／ 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14-402 TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15 TEL：(078)842-6755 FAX：(078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1 TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220	福岡支店	／ 〒814-0161 福岡県福岡市早良区飯倉 5-10-3-102 TEL：(092)707-7810 FAX：(092)707-7870